

様式1 **令和3年度 清瀬市立清瀬第十小学校 学校評価計画**

学校の教育目標	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
・豊かに感じ、よく考える子ども ・友達の良さがわかり、助け合う子ども ・心身をきたえ、明るく生きていく子ども	・育成を目指す資質や能力を「他者とのかわりを通して、よりよく問題を解決できる力(協働問題解決力)」とした。それに伴い実現のために必要な力を以下の4つとした。 ○基礎的な力(言語、数量、情報スキル)○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知) ○他者と共生できる力(人間関係形成力)○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力) 感染防止対策を進めながら、主体的・対話的で深い学びとなるよう、教員が学習内容や方法を工夫して授業展開していく必要がある。そこで校内研究及び教員同士の相互授業参観を通して全教員の指導力向上を図る。 ・「分かる楽しさ、できる喜びを味わえる授業づくり」を通して、育成すべき資質や能力の実現を図り、ICTの活用や養蚕体験を通した命の学習を特色ある教育活動として定め取り組む。
目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】①児童にとって明るく楽しく安心できる学校 ②教職員にとって明るく楽しく指導が行える学校 ③保護者や地域と連携し信頼される学校	
【目指す児童・生徒像】自分を大事に、かわりを大事に、命を大事に、未来を大事にする児童 【目指す教師像】児童に達成感を味わわせ、確かな学力・自尊感情を育ませることのできる教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果 取組指標、成果指標それぞれが「4」と一番高かった項目は、確かな学力の向上として定めた「授業ではめあてや流れも明示することで分かりやすい授業を行う。」と豊かな心の育成として定めた「アセスやアンケートによるいじめの未然防止」であった。学校関係者評価でも信頼度は高くなり、安全・安心な学校として教育活動が展開されている。

課題 取組指標が「3」成果指標が「1」と一番低かった項目は、特別支援教育の充実として定めた「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を行う。」であった。学習支援を必要とする児童のニーズを的確に捉え、その人数を増加させないことが課題である。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践を重視した教育活動を行う。	週の指導計画の内容の充実を図り、児童が分かりやすい授業を行う。	週の指導計画に学習のねらいや活動を記入し、授業ではめあてや流れも明示することで分かりやすい授業を行う。	4 1単位時間のねらいが明記された週案が90%以上 3 1単位時間のねらいが明記された週案が80%以上 2 1単位時間のねらいが明記された週案が70%以上 1 1単位時間のねらいが明記された週案が70%未満	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上 3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上 2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上 1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
		主体的・対話的で深い学びとなるよう、学習内容を工夫して授業を展開する。	教員相互で授業参観の機会を作り、事後に協議を行わせて授業改善を図る。	4 授業参観や協議を効果的に行い授業改善が十分にできた。 3 授業参観や協議を効果的に行い授業改善できた。 2 授業参観や協議を効果的に行ったが授業改善が不十分 1 授業参観や協議を効果的に行えず授業改善が不十分	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上 3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上 2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上 1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
豊かな心の育成	一人一人の児童の良さや違いを認め合い、命と人権を大切にすること豊かな児童の育成を図る。	互いの良さを理解し、すすんで助け合う児童の育成に努める。	来校者や教職員、地域の人にすすんであいさつできるようあいさつ運動を取り入れて指導する。	4 教職員の自己評価で肯定的な回答が90%以上 3 教職員の自己評価で肯定的な回答が80%以上90%未満 2 教職員の自己評価で肯定的な回答が70%以上80%未満 1 教職員の自己評価で肯定的な回答が70%未満	4 すすんであいさつする児童が90%以上 3 すすんであいさつする児童が80%以上 2 すすんであいさつする児童が70%以上 1 すすんであいさつする児童が70%未満
		いじめの未然防止に努める。	アンケート調査を定期的実施する。いじめがあった際は、いじめ防止対策委員会等で適切に対応する。	4 調査実施回数が年間5回以上実施 3 調査実施回数が年間4回以上実施 2 調査実施回数が年間3回以上実施 1 調査実施回数が年間3回未満実施	4 アンケートによる児童の取組への満足度評価A・Bが90%以上 3 アンケートによる児童の取組への満足度評価A・Bが80%以上 2 アンケートによる児童の取組への満足度評価A・Bが70%以上 1 アンケートによる児童の取組への満足度評価A・Bが70%未満
健やかな体の育成	基本的な生活習慣の定着と心身の健康や体力の向上を図り、生きる力にあふれる児童を育成する。	児童がすすんで運動や遊びに親しみ、健康の保持増進と体力の向上を図る。	なわとびの出前授業の実施、学習カードの活用、教員の実技研修を行うことで指導の工夫改善を図る。	4 出前授業や学習カードの工夫を実施した学年が全学年 3 出前授業や学習カードの工夫を実施した学年が5学年 2 出前授業や学習カードの工夫を実施した学年が4学年 1 出前授業や学習カードの工夫を実施した学年が3学年以下	4 すすんで外で運動すると答える児童が85%以上 3 すすんで外で運動すると答える児童が75%以上 2 すすんで外で運動すると答える児童が65%以上 1 すすんで外で運動すると答える児童が65%未満
		自己の健康を意識し、すすんで健康的な生活と基本的な生活習慣の確立を目指す。	「早寝・早起き・朝ごはん」の実践を様々な機会に働きかける。	4 取組みを毎週実施する。 3 取組みを月に3回以上実施する。 2 取組みを月に2回以上実施する。 1 取組みを月に2回未満実施する。	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上 3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上 2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上 1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
特別支援教育の充実	個に応じた指導・支援の充実を図る。	校内委員会を中心とした組織的な支援体制の充実を図る。	学年ごとの支援委員会を定期的に開催し、日々の学年会を活用しながら児童の実態や指導方法を共有し、実践の振り返りを行う。	4 情報共有と振り返りを年間6回実施 3 情報共有と振り返りを年間5回実施 2 情報共有と振り返りを年間4回実施 1 情報共有と振り返りを年間3回実施	4 アセスの対人支援領域の児童が8割減った。 3 アセスの対人支援領域の児童が5割減った。 2 アセスの対人支援領域の児童が2割減った。 1 アセスの対人支援領域の児童が減らなかった。
		個別指導計画やきりりファイルを活用して特別支援教育の推進を図る。	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や環境の工夫・改善を行う。	4 授業や環境改善が十分にできた。 3 授業や環境改善ができた。 2 授業や環境どちらか一方の改善ができた。 1 授業や環境改善が不十分	4 アセスの学習支援領域の児童が8割減った。 3 アセスの学習支援領域の児童が5割減った。 2 アセスの学習支援領域の児童が2割減った。 1 アセスの学習支援領域の児童が減らなかった。
本校の特色	「分かる楽しさ、できる喜びを味わえる授業づくり」を通して、協働問題解決力を育成する。	体験や活動を通して他者と共生できる力、社会の中で実践する力の向上を図る。	蚕学習や石田波郷俳句作りへの参加、郷土カルタや百人一首の活用を充実させる。	4 伝統文化に関する体験や活動を90%以上の学級で取り組む。 3 伝統文化に関する体験や活動を80%以上の学級で取り組む。 2 伝統文化に関する体験や活動を70%以上の学級で取り組む。 1 伝統文化に関する体験や活動を70%未満	4 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが85%以上 3 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが75%以上 2 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%以上 1 アンケートによる児童の満足度の評価A・Bが65%未満
		タブレット端末を活用した個別最適化学習を通して、基礎的な力の向上、他者と共に考える力の向上を図る。	ICTを活用して、分かる楽しさ、できる喜びを実感させるための教材研究を充実させ、授業力を向上させる。	4 研修に積極的に参加し、授業力向上に十分貢献できた。 3 研修に積極的に参加し、授業力向上に貢献できた。 2 研修に積極的に参加したが、授業力向上に貢献できなかった。 1 研修に積極的に参加せず、授業力向上に貢献できなかった。	4 ICTを活用した授業が楽しく分かりやすいと答える児童が90%以上 3 ICTを活用した授業が楽しく分かりやすいと答える児童が80%以上 2 ICTを活用した授業が楽しく分かりやすいと答える児童が70%以上 1 ICTを活用した授業が楽しく分かりやすいと答える児童が70%未満